

## 記録 吉野宿ふじや活性化事業 — 平成 25 年度から 30 年度まで —

山本 菜摘

### はじめに

吉野宿は、江戸時代初期に定められた五街道のひとつ、「甲州道中」の 10 番目の宿場で江戸と甲府の中間にあたり、高遠藩・飯田藩・高島藩（諏訪藩）の参勤交代の常宿として栄えた。「ふじや」は、かつて、旅籠「藤屋」として営まれていたが、明治 29 年の大火で焼失し、現在の建物は明治 30 年頃に建てられたものと言われている。旅籠の名残をとどめる養蚕農家の住居であったが、旧藤野町に寄贈され、平成 3 年に藤野地域の民具などを収蔵・展示する「藤野町郷土資料館ふじや」として開設された。平成 19 年の合併時に「吉野宿ふじや」と改称し、博物館の管理運営となった。その後、国道 20 号改良工事（歩道設置）に伴う曳家による移設及び改修がおこなわれ、平成 25 年 7 月 2 日にリニューアルオープンした。そして平成 26 年 4 月 1 日には町家遺構としての見地から市登録文化財に登録された。

本稿は、このリニューアルオープンの平成 25 年度から平成 30 年度までの「吉野宿ふじや活性化事業」の概要とその成果、今後の課題について述べていく。なお、事業概要やその成果は事業報告書をもととしている。

### 1 平成 25 年度～平成 27 年度

平成 25 年のリニューアルオープン後、「吉野宿ふじや活性化事業」が相模原市協働事業提案制度により採択されたことを受け、平成 25 年から平成 27 年まで NPO 法人ふじの里山くらぶ（以下、里山くらぶ）が実施団体として博物館と協働で、吉野宿ふじやを拠点に地域の特性を活かし情報発信活発化のため各種事業を実施した。

里山くらぶは、吉野宿ふじやのある藤野地域で、「藤野の魅力を見つけ、創り、伝える」ことを目的に平成 16 年から活動している団体である。

里山くらぶが吉野宿ふじやでおこなった事業で特筆すべきは企画展事業についてである。

吉野宿ふじやは、建物の北側は道路、南側は相模川が流れており、南の窓からの風景は非常に素晴らしいのだが、陽の光が部屋に入り、温湿度の調整はできない。また、展示ケースなどの什器も整っているわけではないため大

きなものは露出する形で展示するしかない。展示資料の劣化や破損などの危険性を考えると、吉野宿ふじやは、資料を展示するのに、ふさわしい場所ではないといえる。

しかし、所有者からそうした状況であることを理解してもらった上で許諾を受け、企画展を数多く開催しているのは長年地元で築き上げてきた信頼関係があるからであろう。

平成 25 年度 1953 名 228 日

- (1) リニューアル・オープン展「甲州道中・吉野宿と“ふじや”」

内 容 「吉野宿ふじや」の移設工事完了に伴う再開館を記念し、当施設の前身であった旅籠・藤屋に残された品々や吉野宿本陣をはじめ甲州道中・吉野宿にまつわる資料を展示した。

期 間 平成 25 年 7 月 2 日(火)～9 月 1 日(日)

観覧者 485 名

成 果 開幕初日の式典には地元の児童・生徒の来場もあり、若年層への PR にも努めた結果、夏季の例年入館者数を上回ることに繋がった。まずは“新生”ふじや及び吉野宿の存在をこれまでより多くの方々に知ってもらえ、なおかつ資料所蔵者の力添えもあり再開記念にふさわしい展示会を開催できたことで、続く事業の下地ができたと考える。

- (2) 歴史散策「緑区藤野地域の甲州道中に行く」

内 容 緑区藤野地区の甲州道中をルートに選び、関野宿及び吉野宿周辺の歴史探訪を行った。

期 間 平成 25 年 11 月 4 日(月・祝)

参加者 34 名(募集定員制)

成 果 参加者からの意見は、企画への好感を述べたものが多く、地域の魅力の発見につながられた。

- (3) 企画展「藤野の懐かしい写真展」

内 容 一般募集、吉野宿ふじや所蔵等による明治期から昭和30年代にわたる古写真81点を展示した。

期 間 平成25年12月17日(火)～平成26年3月16日(日)

観覧者 533名

成 果 見学者アンケート(50～60歳代、緑区在住が圧倒的)から推察すると、「会場と内容がベストマッチ」「貴重な写真に出会えて地域に興味が増えた」「継続と未知の写真の掘り起こしを」「驚きと楽しみの連続」などの意見が多くを占め、総じて活性化事業の目的は達成できたと考える。

#### (4) 語り合うつどい「藤野の魅力と可能性」

内 容 これまで緑区藤野地区のまちづくりに関わられた経験をお持ちの横浜国立大学関係者の講演等を皮切りに、参加者相互によるフリースカッションを展開し、地域のもつ特徴を活かした魅力づくりについて考えた。

期 間 平成26年1月19日(日)

参加者 83名

結 果 アンケートの回収率32%ながら、「企画への好印象」「学生・先生方の努力への賛辞」「藤野地区の魅力の発見と興味の深まり」「自然・歴史環境と現在環境の対比」「高齢化・過疎化などの実情」など様々な意見が寄せられ、会場での発言以外にも各人が置かれた立場で地域に対する関心の高さが理解できた。また、甲州道中つながりの縁でこの協働事業への協力支持や活動事例の参考としたい旨の感想が隣町・上野原市の参加者から寄せられ、予想外の広がりが認められたことも特筆される。

#### (5) さがみはら発見のこみち「甲州道中 吉野宿マップ」制作(3万部)

制作趣旨 博物館ネットワーク計画の推進の一環でこれまで発行されている「さがみはら発見のこみち」シリーズとして吉野宿ふじやを拠点とした案内マップを作成し、市民の歴史探訪等への活用を図った。

成 果 吉野宿周辺の史跡等地域資源を簡潔に案内できる地図に仕上げることができ、次年度以降に展開する協働事業の基礎資料として、また緑区藤野地区の来訪者への配布資料として積

極的に活用していく素材ができた。

平成26年度 3202名307日

#### (1) 夏休み企画「蚕の飼育」

内 容 かつて藤野地域において盛んに行われていた養蚕。当吉野宿ふじやの2階、3階でも養蚕の施設として使われていた。今年は3齢の蚕を150頭購入し、地域の人たちからご協力を頂き、蚕の飼育を行った。

期 間 平成26年7月26日(土)～8月25日(月)

観覧者 152名

成 果 藤野の子ども達に蚕の桑くれや、糸を張る蚕の姿、繭玉から生糸をとる実演まで、子ども達にとっては貴重な体験ができ、かつて養蚕業がさかんだった地域の歴史を体験を通じて知ってもらうことができた。

#### (2) 企画展「甲州道中と俳句展」

内 容 八王子、上野原、大月など近隣市を含めた甲州道中の句碑を紹介するとともに、藤野・相模湖・上野原地区における俳句会活動を紹介した。

期 間 平成26年8月3日(日)～10月5日(日)

観覧者 594名

成 果 松尾芭蕉の句碑などに光を当てた展示会は、かつての甲州道中の賑わいと俳句活動を行った方を思い起こす良い機会となった。また、甲州道中を通じて、広域的に展示会が理解され山梨新聞にまで取り上げられるほどの関心が寄せられた。また、アンケート結果からは「改めて俳句の歴史に触れた」「甲州道中に句碑が沢山あることを知った」「これからの俳句活動に励みになった」など甲州道中の俳句展が、吉野宿ふじやからの良い発信となり、吉野宿ふじやの良いPRになった。

#### (3) 歴史散策「第2回緑区藤野地域の甲州道中を行く」

内 容 甲州道中を藤野駅から小原本陣まで歩き、この地域に残る様々な文化にふれながら甲州道中に残る秋の風情を味わい、さらに地域の魅力を参加者相互で再発見することができた。

期 間 平成26年11月29日(土)

参加者 29名(募集定員制)

成果 アンケートの回収94%と当日は悪天候となったにもかかわらず参加者の関心は高く、見学先での丁寧な説明が参加者に好評だった。また、地元の歴史について興味が湧いたとの回答が多数を占めた。今回、上野原方面の方が関心度が高かった。

(4) 企画展「第2回藤野の懐かしい写真展」

内容 旧藤野町の小学校10校と中学校1校の記念誌やアルバムを基に主に昭和20年代からの昭和の時代の学校の様子を紹介した。また、昭和20年代からの昭和の時代の地域の人々の生活や風景と、相模湖ができる以前の相模川の様子を紹介した。

期間 12月9日(火)～2月8日(日)

観覧者 491名

成果 見学者アンケート(50～60歳代、緑区在住が圧倒的)から推察すると、「消えつつある文化は二度と戻らない時の流れを大切にしたい」「いつまでも保存してほしい」「父の懐かしい写真があった。父に伝えたい」「小学校の思い出がよみがえった」「写真展続けてほしい」など大変好評であった。

(5) 語り合うつどい「水没した勝瀬集落について」

内容 旧藤野町勝瀬集落(84世帯)は、相模ダム建設のため昭和18年3月を期限として海老名市、日野市、八王子市、等に移転した。今、70年が経過し、勝瀬集落について知る人たちも限られてきた。当時14歳で日野市に移転した小野完二氏をお招きして当時の思い出を語って頂き、勝瀬集落の写真を上映しながら参加者で意見交換をした。

期間 平成27年1月17日(土)

参加者 85名(会場定員制)

結果 「津久井の中でも自然環境に恵まれた裕福な集落であり、東京と山梨との物流の基地であった。このようなことから勝瀬は広大な土地と金持ちが多く、面倒見が良く協力し合って暮らしていた。戦時中、お国のためにみんなが協力して移転を承諾して相模ダムが誕生し、今の京浜地帯が栄えたことを忘れてはならない」と小野完二氏は熱く語ってくれた。消え行く勝瀬集落について参加した海老名市、日野市、八王子市、緑区の方々から貴重なお話

だったと思いを新たにしていた。

(6) 季節展示「藤野のおひなさま」

内容 藤野の家庭で大切にされたお雛様。大正時代から昭和50年代に作られたお雛様5組を古民家「吉野宿ふじや」で展示紹介した。

期間 平成27年2月22日(日)～3月15日(日)

観覧者 351名

成果 アンケート結果の意見では「築120年の古民家にお雛様が似合う」「懐かしい幼い無邪気な頃の自分を思い出した」「お雛様によってよき時代を知ることが出来た」「1組ごとの詳しい説明がほしかった」「お雛様の当人のエピソードなどあればさらに見ごたえがあった」「デイサービスのお年寄りが大勢来てくれて、楽しんで帰られた」このような来館者からの結果を得た。

(7) 常設展示の模様替え作業

内容 開設以来2階展示コーナーの整理が課題となっていた。そこで「藤野地域全体」と「吉野宿」が理解いただけるよう特徴を出したインパクトのある展示コーナーとして「藤野の昔のなりわい」「藤野の歴史と文化」「藤野の暮らしと道具」「吉野宿とふじや」の4分類に分け、訪れる方々に藤野を理解して頂けるように展示を工夫した。

期間 事前作業2月4、5、6、10、11日

本格作業2月17、18、19、25、26、27日

3月3、4、5、6、10、11、12、13日

成果 博物館学芸員の指導により2階コーナーを「藤野地域全体」「吉野宿」を柱として「藤野の昔のなりわい」「藤野の歴史と文化」「藤野の暮らしと道具」「吉野宿とふじや」の4分類に特徴づけて模様替えを実施した。実施作業にあたっては、ふじの里山くらぶ会員、藤野観光協会役員、市民協働推進課を通じて市地域活動・市民活動ボランティア認定による相模女子大学生3名の協力により、清掃から保存品の箱詰め、展示の補助までお手伝いを頂き、限られた期間で完成することができた。なお、展示コーナーの細かな説明文等は翌年の作業として引き続き実施することとした。

平成 27 年 3119 名 304 日

## (1) 夏休み企画「蚕の飼育」

内 容 かつての藤野地区において盛んに行われていた養蚕。当吉野宿ふじやの2階、3階でも養蚕施設として使用されていた。昨年の繭からふ化させ、蚕の飼育を行った。

期 間 平成 27 年 7 月 25 日(土)～8 月 30 日(月)

観覧者 265 名

成 果 子ども達は蚕の桑くれをし、糸を張る蚕の姿、繭玉から生糸や繭人形の実演まで、地域の方からの協力を頂き、貴重な体験ができた。かつて養蚕の盛んだった藤野の歴史を体験を通じて知ってもらえた。また、要望のあった公民館に繭玉を配布したり、八王子イチョウ祭りにミウル繭人形の実演を行い、緑区の宣伝にもなり参加した子ども達に人気を集めた。

## (2) 企画展「第3回藤野の懐かしい写真展」・「戦時中の体験記展」

内 容 藤野地区の過去の懐かしい写真の展示、戦時中の体験記録で過去の歴史を振り返る。

期 間 平成 27 年 7 月 22 日(水)～10 月 31 日(土)

観覧者 1073 名

成 果 入館者から「昔懐かしい思い出深い写真を見て、生活、学校、遊びに至るすべてが自分たちで創意工夫した時代。当時の生活を思い出し、物の大切さ、暮らす人々の助け合いや思いやりを大切にできる機会となった」戦時中の体験記では、「戦争に行った方からの生の体験話が聞けて戦争の恐ろしさをあらためて知り、おこしてはいけない戦争の悲惨さを実感した」との感想があり、この展示はこれからの生活を考える良い機会になった。

## (3) 企画展「桂川・相模川 一人々の生活と川一展」

内 容 かつて生活の中心であった「桂川・相模川」の水運やアユ漁などの歴史を資料や写真等で知らせる。

期 間 平成 27 年 11 月 10 日(火)～平成 28 年 1 月 31 日(日)

観覧者 803 名

成 果 上野原市から緑区小倉まで人々の生活や交流、物資の流通に至るまで「桂川・相模川」の川を中心にした生活が認識できた。また、相模

川のアユが東京方面で高級なアユとして取引された経緯がわかり、人々と川の繋がりを歴史から読み取り、近隣者からの協力を得てより詳しく市民等に伝えることが出来た。

## (4) 歴史散策「第3回緑区藤野地域甲州道中に行く」

内 容 上野原宿から吉野宿まで歩き、晩秋の甲州道中の風情を味わいながら、地元講師の説明を聞く。

期 間 平成 27 年 11 月 28 日(土)

参加者 28 名(募集定員制)

成 果 参加者からは、「細かな歴史にふれることができ、知らないことが沢山あった」と感動が寄せられた。また、「初めての方からは甲州道中の歴史にふれ興味が湧いた」などの意見があった。

## (5) 語り合うつどい「吉野宿ふじやを拠点にした活性化策について」

内 容 吉野宿ふじやを拠点とした活性化策は、3 年の協働事業の成果を生かし、甲州道中の小原宿、上野原宿などと連携をはかり吉野宿ふじやの甲州道中の中間地としての拠点になるよう意見交換を行った。

期 間 平成 28 年 1 月 16 日(土)

参加者 74 名(会場定員制)

結 果 「吉野宿ふじや」のような古民家を保存して伝承することが大切であり、歴史、文化を大切にしながら新しい試みを試行錯誤していくことが新たな発見に繋がることである。藤野地区は自然が豊富で歴史もある。これらを組み合わせ甲州道中の宿場の跡を残している「吉野宿ふじや」の活性化に繋げていくことが望ましいとの方向となった。

## (6) 季節展示「第2回藤野のおひなさま展」

内 容 藤野地区の家庭で大切に保管されてきたおひなさま。昭和の初期から昭和 50 年代に飾られたおひなさま 5 組を古民家「吉野宿ふじや」に展示紹介する。

期 間 平成 28 年 2 月 2 日(火)～3 月 27 日(日)

観覧者 452 名

成 果 デイサービスの参加のお年寄りからは「懐かしい、落ち着いたひと時を過ごせた」との感動がよせられた。また来館者から「つるし雛」



が持参され見事に飾られ会場の雰囲気を一層盛り立てた。藤野地区の古いおひなさまをさらに発掘して、今後はスペースに合わせて申し込み制で期間中に自分たちで飾るなどの方式を検討していく。

#### (7) 吉野宿ふじや看板設置

内 容 案内標を町時代の内容から現在に改める。「吉野宿ふじや」看板の新規作成と位置の変更、周辺の名所旧跡等を入れた両面案内板の新設をして、甲州道中を歩く方、吉野宿ふじやを訪れる方への利便性を図った。

期 間 平成28年3月17日(木)完成

成 果 吉野宿において「吉野宿ふじや」の位置関係や訪れる方に内容がわかりやすいように看板等を改修新設した。小原宿、吉野宿、上野原宿の甲州道中を歩き、歴史を学び訪れる方に利便性を図った。

#### (8) 吉野宿ふじや内の案内パネル設置

内 容、成 果 「吉野宿ふじや」を訪れる方に甲州道中や藤野地区の名所旧跡の案内。さらに観光を一部付加した藤野周辺の案内のできるパネル板の設置と藤野地区の特産品の展示、協働事業の成果のパネル板、協力団体の活動パネル板を設置して館内のメリハリと入館者への利便性を図ることができた。

期 間 平成28年3月17日(木)完成

## 2 平成28年度

平成25年から27年度までおこなわれた「吉野宿ふじや活性化事業」によって、甲州街道の中間地点として各種事業を発信した結果、吉野宿ふじやの宣伝に繋がり入館者の増加がはかられた。これらの手法や実績を踏まえ、平成28年度は「仮称、吉野宿ふじや活性化事業」として近隣の関連団体の協力により、甲州道中にちなんだ事業や、藤野周辺の歴史、文化の紹介を広く市民にPRできるような事業、藤野周辺の観光ルートとして「吉野宿ふじや」を活用する事業が展開された。

なおこの年度の各事業成果については記録を確認できなかったため省略した。

平成28年度 3154名302日

#### (1) 「甲州道中と半原宮大工作品展」

内 容 江戸の幕末から昭和にかけて半原宮大工の矢内家が携わった甲州道中周辺の 寺社、神輿についての展示と宮大工の匠の技や道具の展示。

期 間 平成28年7月15日(金)～8月31日(水)

観覧者 延べ449名

関連事業 8月6日(土)に協力者鈴木光雄氏の講話を開催

協力者 鈴木光雄、ふじの里山くらぶ、藤野観光協会

#### (2) 「蚕の飼育とミウルづくり」

内 容 かつて藤野地区で盛んだった養蚕の飼育体験とその歴史を学ぶ。合わせて、繭玉を使った緑区のキャラクターであるミウルづくりを楽しむ。

期 間 平成28年7月30日(土)～8月31日(水)

観覧者 延べ343名

関連事業 ミウルづくり参加：20組40名

協力団体 ふじの里山くらぶ、藤野観光協会

#### (3) 「藤野の古道と美しいやまなみ展」

内 容 甲州裏街道、甲州古道及び藤野の15名山、四季を通した陣馬山茶店からの貴重なスケッチ絵、歴史ある地元山岳愛好者の活動記録などを紹介した。

期 間 平成28年10月5日(水)～平成29年1月25日(水)

観覧者 延べ1099名

協力団体 陣馬の茶店清水茶屋、藤野山岳協会、ふじの里山くらぶ、藤野観光協会

#### (4) 「藤野のおひなさま展」

内 容 藤野地域に伝えられた、昭和の古いおひなさまを展示し、おひなさまを鑑賞して風情を味わった。

期 間 平成29年2月15日(水)～3月25日(土)

観覧者 延べ395名

協力団体 ふじの里山くらぶ、藤野観光協会

## 3 平成29年度～30年度

「吉野宿ふじや活性化事業」は平成29年に公募型プロポーザル方式で企画・運営の委託先を募集した。その結果、里山くらぶに企画・運営を委託することになり、里山く

らぶは企画展事業を中心とした関連事業等を開催した。  
なお平成29年4月1日から開館日を原則として土日祝日とし、企画展開催中の期間のみ月曜日休館と変更した。

平成29年度 1554名115日

\*団体及び企画展による平日の利用人数を含めると46名  
／186日

#### (1)「藤野の養蚕展」

内 容 「吉野宿ふじや」を会場として、お蚕の飼育の見学や糸取り・繭のクラフトの体験などを通して、藤野地域の養蚕にまつわる資料やエピソードなどを紹介した。

期 間 平成29年7月15日(土)～8月27日(日)

観覧者 延べ650名

関連事業 ①カイコの「桑くれ」体験  
②ワークショップ(マユからの糸取り)  
③「養蚕の体験を聞く会」  
日 時 7月29日(土)  
講 師 山口千三、中村百代  
参加者 32名  
④講話「津久井の養蚕」  
日 時 8月20日(日)  
講 師 菊地原稔、守屋博文  
参加者 38名

協力団体 藤野観光協会

成 果 体験目当ての家族連れが多かった。また、「養蚕の体験を聞く会」と講話も好評で、専門的な内容を期待してか、遠くからの参加者もあり、質疑応答も活発におこなわれた。

#### (2)「藤野の石造物展」

内 容 藤野の石造物を地域ごとに、地図、写真、解説文などで紹介した。また、実際に石造物を見学する探訪を実施した。

期 間 平成29年11月1日(水)～12月10日(日)

観覧者 延べ523名

関連事業 石造物めぐり  
日 時 ①11月3日(金・祝)  
②12月2日(土)

場 所 藤野駅から相模湖駅まで  
講 師 大房晋、尾花和一、村田公男  
参加者 ①19名 ②30名

成 果 来館者の多くが、藤野地域にある石造物の種類と数の多さに驚いていた。藤野の歴史や文化に興味・関心を持ってもらえるきっかけに

なった。各地域の調査を通じて、吉野宿ふじやのPRができた。

#### (3)「藤野のおひなさま展」

内 容 藤野地区の方から寄贈を受けたものや借用した「おひな様」を展示した。特に今回は享保期とされる貴重なおひな様の展示も行った。

期 間 平成30年2月17日(土)～3月25日(日)

観覧者 延べ543名

関連事業 ひな人形作り  
日 時 2月24日(土)、3月3日(土)、  
3月17日(土)、3月24日(土)  
講 師 ふじの折り紙サークル  
参加人数 延べ76名

成 果 借用した江戸時代中期の享保雛や大正末期のおひな様に多くの来館者が感心していた。ひな人形作りが大変好評で、吉野地区の女性たちが何度も参加し、講師の折り紙サークルの人たちと活発な交流がなされた。

平成30年度 2012名115日

\*団体及び企画展による平日の利用人数を含めると3689名  
／240日

#### (1)「吾が心の山-山岳写真家三宅修の踏み跡展」

内 容 緑区吉野在住で山岳写真家として活躍されている三宅修氏の写真や著書などを展示した。

期 間 平成30年4月29日(日・祝)～6月10日(日)

観覧者 延べ880名

関連事業 ギャラリートーク  
日 時 5日6日(日)、6月10日(日)  
参加者 延べ87名

成 果 全国的に知名度のある緑区吉野在住の山岳写真家である三宅修氏について、相模原市や近隣の人々に紹介することができた。予想以上の来館者数となり、吉野宿ふじやについても大きくPRすることができた。

#### (2)「藤野の昔の産業展」

\*博物館出張展示「宇宙展」と同時開催

内 容 かつて藤野で盛んだった産業「炭焼き」と「養蚕」に関する展示を行った。

期 間 平成30年7月14日(土)～8月26日(日)

観覧者 509名

関連事業 講話「山仕事」

日 時 8月4日(土)  
講 師 三宅 岳(山岳写真家)  
参加者 35名

成 果 藤野地域の主な産業であった炭焼き、養蚕についてその歴史、内容等について紹介することができた。炭焼きの道具をまだ保管している家から借り展示することが出来た。所有者も展示したことを喜んでくれた。糸取りなどのクラフト体験は継続しておこなっているため、その体験を楽しみにしている来館者がいた。ギャラリートークによってより深く展示の内容が理解でき、好評であった。

### (3) 博物館出張展示「宇宙展」

※「藤野の昔の産業展」と同時開催

内 容 博物館出張展示として、小惑星探査機「はやぶさ」や7・8月の天文現象も紹介した。

関連事業 「天体観測会」※悪天候のため中止

日 時 7月28日(土)  
場 所 藤野中学校校庭

成 果 はじめての博物館出張展示であった。今後もこのような取り組みをしていきたい。

### (4) 「甲州道中(相模湖・藤野・上野原)見どころ展」

内 容 甲州道中のうち、特に相模湖・藤野・上野原の名所・旧跡などの見どころを、写真や文献などで紹介した。

期 間 平成30年10月20日(土)～12月2日(日)

観覧者 579名

関連事業 ①甲州街道を歩くー藤野駅から小原宿までー  
内 容 郷土史家の案内解説を聞きながら探訪を行った。

日 時 11月10日(土)  
参加者 17名

②ギャラリートーク

内 容 上野原市文化財保護委員長の長谷川孟氏が甲州道中の見どころをお話しした。

日 時 11月24日(土)  
参加者 35名

成 果 これまで甲州道中の藤野地域を紹介してきたが、近隣の相模湖・山梨県上野原地域まで広げて展示ができた。これからの一層の連携が期待される。甲州道中宿を歩く人たちに、「見どころが分かって参考になった」と喜ばれた。

あまり知られていない「相州一宿一話」の紙芝居も紹介することができた。

### (5) 「甲州道中のおひな様展」

内 容 ひな人形の展示とともに、各地域のひな祭りを写真などで紹介した。

期 間 平成31年2月16日(土)～3月24日(日)

観覧者 延べ483名

関連事業 「紙の雛人形づくり体験」

日 時 平成31年2月17日(日)、24日(日)、  
3月3日(日)・17日(日)

参加者 延べ107名

成 果 近隣の相模湖や上野原に伝えられたおひな様を展示することが出来た。今後の連携にも期待が持てるし、そこからの来館者もあった。紙の雛人形づくり体験は、毎回参加する人がいるなど、好評だった。おひな様をお借りした家の方が来館され、おひな様が展示されているのを見て喜ばれた。

### まとめ

吉野宿ふじやでは、協働事業から委託事業へ移行された後も、藤野で活動をしている里山くらぶが運営に深くかかわってきた。そして、一貫して藤野に関係した歴史や文化を企画展及びその関連事業で紹介してきた。その結果、地元の人々への吉野宿ふじやの周知が進み、藤野地域の歴史文化の中心として機能してきているのではないだろうか。

今後必要になってくるのは、より広く吉野宿ふじや及びこの藤野地域のことを知ってもらうための活動である。そのためにはどのような活動をしていくのが良いのか検討していく必要があるだろう。